

# 自治体改善の輪 通信 2020 No11

## 新企画、バースデーレポートを開催



### 自治体改善マネジメント研究会 バースデーレポート実施報告

#### これまでの研究員のふりかえりと交流の場

新型コロナウイルスの影響で、私たち自治体改善マネジメント研究会の活動も、役割や手法の見直しが求められました。リアルで行う事が出来なくなった代わりに、zoom等のオンラインミーティングをツールとして活用することを、すでに多くの人が実践しています。研究会でも、今年度は各種の場をオンラインで実施しています。

そこで、新しく立ち上げたのが、「バースデーレポート」の企画です。これは、過去6期にわたって、各自治体の研究員により作成してきた研究レポートを期を超えて共有し、研究成果を各自治体に持ち帰った後どのように活用されているのか、また、職場や立場が変わったときには見えてきた新たな気づきなどを、会員間でざっばらんに共有するオンラインの場です。

「バースデーレポート」は、

- 1) その月に誕生日を迎える研究員が、ゲストスピーカーとして過去のレポートをもとに現状報告(約20分程度)
- 2) バースデーレポートに参加している会員士が、自己紹介と感想を共有(約40分程度)

といった流れで進めています。

#### 【第1回】福岡市役所のDNA運動(第1期:吉崎謙作さん)

第1回は、第1期研究員の吉崎謙作さん(福岡市役所)をゲストに、6月20日に開催しました。

吉崎さんからは、福岡市役所の改善運動、DNA運動を福岡市役所の市政運営の歴史や行財政改革の変遷について、行財政改革の担当者としての経験と研究で得られた気づきを基に解説していただきました。

参加された会員の中には、「はじめまして」の方も多くいて、リアルの場では距離的・時間的制約の中で会う事が出来ない会員同士の交流の場にもなりました。



#### 【参加者の感想から】

- ・ 休止することもある改善運動が再び芽を出すというものこそ、まさにDNAレベルでの組織文化なんだと思います。
- ・ 改善運動が必要であるという、何か不変の必要性の定義のようなものが出来ないかと思った。
- ・ 現市長のイノベーション気質に食らいついていける福岡市の職員には、DNA運動により刻まれてきたのではないかと感じた。

#### 【第2回】「よそ様」に育ててもらおう人材育成(第2期:浦本佳行さん)

第2回は、第2期研究員の浦本佳行さん(京都府精華町)をゲストに、7月11日に開催しました。

財政担当として、国の三位一体改革や集中改革プランによる行財政改革を進める立場であった浦本さんは、人口が増加していく中でも、職員数は増やすことが出来ない状況の中で、「よそ様」に育ててもらおう人材育成に活路を見出しました。

その後、立場が人事担当となる事で、これまでアウトソーシングで外部流出したノウハウが、災害時の危機管理の上で内製化する事が重要であるという考えから、特に専門性の高い職種を増員するという改革を行ったなどの経験を語っていただきました。

また、今回はゲストから「逆質問」が事前に準備されており、「OJTが機能しにくい環境の中での有効な人材育成の手法」「行政の労働力は、本当にAIに取って変わられるのか？」の2つの質問に対し、参加者がそれぞれの考え方をもち寄って共有することも出来ました。

今後も研究員の誕生日ごとにお互いの思いや考えを知り合えることが楽しみです。(文責:岩手県金ヶ崎町 松本)

